

2024年度 セミナー ご案内

「法人メンバー」にご加入下さいますようお願い申し上げます。



『参加者が自由に議論するための「プラットフォーム」 SRM クロスオピニオン セミナー』

オンラインと対面式の併用開催:

- ① Zoom Meeting
- ② ちよだプラットフォームスクウェア
最寄り駅: 竹橋 (地下鉄東西線)

テーマの例:

- ① 企業研究、事業研究、② 日本が抱える問題
- ③ ヒューマンエラー (認知エラー、コミュニケーションエラー
うっかりミス、設計、事務管理のダブルチェックエラー)
- ④ 安全の作り方、伝え方 (マニュアル、図表)
- ⑤ 交渉と説得、消費者コミュニケーション

2024年度 セミナー開催日程

開催日		開催日	
第182回	4月17日(水) 13:00~17:00	第188回	10月18日(金)13:00~17:00
第183回	5月17日(金) 13:00~17:00	第189回	11月20日(水)13:00~17:00
第184回	6月19日(水) 13:00~17:00	第190回	12月20日(金)13:00~17:00
第185回	7月19日(金) 13:00~17:00	第191回	2025年 1月22日(水) 13:00~17:00
第186回	8月21日(水) 13:00~17:00	第192回	2月21日(金) 13:00~17:00
第187回	9月20日(金) 13:00~17:00	第193回	3月21日(金) 13:00~17:00

2024年度 セミナー参加費

セミナーは、
「オンライン(Zoom)」と「対面式」の
ハイブリット開催です

◆オンライン：ZOOMを使用

◆対面会場：ちよだプラットフォームスクウェア会議室

住所：〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3 - 21

TEL：03-3233-1511 / FAX:03-3233-1501

最寄り駅竹橋駅(東西線) KKRホテル 出口より徒歩4分

セミナー参加費 ※ 法人メンバー、一般法人、特別個人

(2024年4月1日より適用)

種別	参加者	参加費(※消費税込みの表示)
法人契約	法人メンバー ※年間契約	①年間参加費： ¥126,500-/年・1名 ※税込み ※12か月分 一括前払い、毎月1名/回が参加できる ②2人目以降の参加費： ¥8,800- /名・回 ※税込み、都度参加/1名・回 ③特典：法人メンバーのみの「オンライン懇親会」を企画開催する
	一般法人 ※都度参加契約	①セミナー参加費 ¥11,000- /名・回 ※税込み、都度参加/1名・回
特記事項 ①法人向け請求書、領収書を発行(インボイス制度準拠) ②参加資格：企業・生協などの実業を行う法人 ※過去に不適切な行動があった団体は不可		
個人契約	特別個人 ※申請時、審査あり	①セミナー参加費 ¥5,500- /名・回 ※税込み、都度参加/1名・回
特記事項 ①個人向け請求書、領収書を発行。 ※法人向け請求書、領収書は発行しない。 ②参加資格：セミナー代表が参加の可否を決定する		

※ 法人&個人メンバーは「(一社)品質と安全文化フォーラムの社員」を兼ねるものではありません。

※ 参加費については、インボイス制度に準拠した際、納税額が明確に割り切れるように、参加費を再設定させて頂きました。

2024年度 講演テーマ(予定)

1. 企業の来た道、これから行く道(企業紹介)

- ①企業の創立、事業活動
- ②顧客対応と安全・品質管理などの活動の紹介
- ③企業と社会

2. 消費者の安全と安心 ~リスクマネジメントと認証制度~

- ①安全の仕組み、製品・食品の消費者志向と安全
- ②消費者の誤使用防止/製品、生活用品、化粧品など
- ③消費者目線の取り扱い説明書、仕様書/製品、生活用品
- ④認証システムと食品・製品の安全

3. ヒューマンエラーと防止対策

- ①出荷、売り場でのヒューマンエラーと事故
- ②コミュニケーションエラー
航空管制、工事現場引継ぎ、業務引継ぎ、注意連絡、
医療現場投薬指示など、※言ったはずだ症候群
- ③ダブルチェックエラー（設計監理、事務管理、現場点検管理など）
- ④設計のヒューマンエラー（※同じ視点の管理、監理ミス）
- ⑤上書きミス、転記ミス、業務管理、報告のエラー
- ⑥消費者の誤使用はヒューマンエラーか？

4. 事故、事故原因と安全文化

- ①不祥事の原因:「集団浅慮、集団の空気」「倫理観欠如」
- ②組織のヒューマンエラー、意図的エラー
- ③建設工事で起きる人身事故
- ④建物、橋梁、住宅で起きる利用者の事故
- ⑤食品製造、出荷、プロセスセンター、売り場
- ⑥食品の売り場での事故
- ⑦食品事故、食中毒事故。弁当(ごはん)中毒

5. リスクマネジメントと認証制度

- ①事故防止のISO、CODEX、JISなどの安全規格
- ②安全の作り方、リスクマネジメントと認証制度

6. 消費者とコミュニケーション、交渉と説得

- ①安全の伝え方、リスクコミュニケーション
- ②リスクコミュニケーションのあり方
- ③消費者学習支援、リテラシー向上を目指す

7. 日本社会が抱える問題

- ④高齢化社会、人口と労働力など

(1)ディスカッションの内容は他言無用

当セミナーは参加者の自由なディスカッションを原則として運営しており、参加者の発言は個人の自由な考えに基づくもので、企業の公式な発言ではありません。従って、議論した内容及び参加者各人の発言、誰がどの様な話をしたかなどについては他言無用とします。

また、セミナー参加者が所属法人内で報告する場合、セミナーの参加者、事務局、主催者の名誉・利益を損なわない配慮を求めます。

(2)セミナー講演資料の著作権・知的財産権の尊重と保護

当セミナーの参加者には、セミナーの講演資料の著作権を尊重し、保護するための配慮を求めます。また、セミナーの講演の配布資料を所属法人内に配布する場合、講演者の知的財産権を侵害することがないように、配布先を限定、人数を限定することを求めます。

また、セミナーの参加者が講演者の著作権を侵害する恐れ、トラブルを引き起こす恐れがあると事務局が判断した場合、当該セミナー参加者に対し「警告を発し」、参加者の所属法人内での配布数を限定することができるものとする。なお、当該参加者が事務局の指示を無視した場合には違反した当該参加者に対し損害賠償請求ができるものとする。

なお、過去のセミナーでの配布資料を入手したいとセミナー参加者から求められた場合には、当該資料の著作権者の許可が得られた場合のみ、事務局は実費にて当該講演資料を供与できるものとする。

(3)参加者の発言の修正・撤回のためのルール

セミナー参加者がセミナー内での発言を撤回、修正したいと意図する場合には、当該参加者は「発言内容を撤回、修正する旨の文書」を準備して、事務局に他の参加者に配布することを求めることができる。この場合、事務局は誠実に対応するが、撤回・修正には責任を負えないことを理解して頂く必要がある。

(4)セミナー内での営業活動の禁止

当セミナーにおいては、セミナー参加者には営業活動と看做される行為を原則禁止とします。なお、セミナーでは講演者が講演者の事業・商品について説明することを妨げないとし、また講演についての議論の中で話題となった事業の説明が必要になった場合には例外的に認めることとする。

(5)看做規定(みなし規定)について

当セミナーの参加者は上記の運営ルールを承認しているものと看做し、参加者はセミナー開催中には事務局の指示に従うものとする。

以上

SRMクロスオピニオンセミナー『セミナー法人メンバー 2023年度』

2024年3月15日現在

メンバー番号		セミナー法人メンバー
2009年	S0901	シマダヤ株式会社 マーケティング本部
	S0903	東海漬物株式会社 品質保証部
2010年	S1004	カルビー株式会社 品質保証本部
2011年	S1110	アイリスオーヤマ株式会社 品質管理部
	S1113	日本ハム株式会社 品質保証部
2013年	S1315	株式会社カネカ 信頼の生産力センター 品質・地球環境センター 品質保証グループ
2014年	S1418	パナソニック株式会社 品質・環境本部 安全・品質部
2016年	S1622	イオン株式会社 商品管理本部 グループ品質管理部
2018年	S1826	花王株式会社 品質保証部門
	S1827	日本メナード化粧品株式会社 経営企画部門
2019年	S1929	YKK AP株式会社 品質本部 品質保証部
2023年	S2330	ミドリ安全株式会社 営業統括本部 営業推進部
	S2331	株式会社 建設技術研究所
		以上13社

※セミナー法人メンバーは「一般社団法人品質と安全文化フォーラム」の会員ではありません。

SRMクロスオピニオンセミナー『オピニオンリーダー』

2024年3月15日現在 アイウエオ順・敬称略

向殿 政男	明治大学名誉教授、明治大学顧問、(公財)鉄道総合技術研究所会長	安全学
南波 裕樹	大成設備株式会社 常勤監査役	企業法務
相馬 成光	日本ピュアフード株式会社 常勤監査役	食品安全
内堀 伸健	元日本生活協同組合連合会	品質管理
原島 圭介	元 UL ASG Japan 代表取締役社長	認証
中田 亨	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	ヒューマンエラー
黒沼 陽一郎	株式会社日本環境認証機構 審査本部 (元東芝)	製品安全
湯川 剛一郎	公益社団法人日本技術士会 農業部会長	食品安全マネジメント
河野 龍太郎	株式会社安全推進研究所 代表取締役、自治医科大学名誉教授	ヒューマンエラーヒューマンファクター
富岡 伸一	サントリーマーケティング&コマース(株) 品質保証推進部・技術顧問	品質保証マネジメント
井上 淳	日本チェーンストア協会 副会長	流通管理
松岡 猛	宇都宮大学 基盤教育センター非常勤講師 元宇都宮大学教授	安全工学、安全性評価
垣本 由紀子	日本ヒューマンファクター研究所 顧問 安全人間工学担当	安全人間工学、航空心理学
関谷 剛	東京大学医学部付属病院 アレルギーリウマチ内科 医師	アレルギー
中井 正男	日本ハム株式会社 加工事業本部 管理統括部 品質保証室 室長	品質保証
宇都 佳裕	元 日本ハム株式会社 品質保証部 シニアマネージャー	食品品質管理、安全
聳城 豊	(株)ライフイル 動物施設環境企画室 主席コンサルタント 獣医師	安全性、安全性評価
小玉 善人	ポラス株式会社 総務部サービス課 安全推進チーム 参事	住宅安全

相談役 (元会長) **向殿 政男 先生** 博士(工学) MUKAIDONO MASAO

◆明治大学 顧問 名誉教授 明治大学 校友会名誉会長 (同窓会長)
公益財団法人 鉄道総合技術研究所 会長、 公益社団法人 私立大学情報教育協会 会長
一般社団法人 セーフティグローバル推進機構 会長

◆元 理工学 情報科学科 教授、学部長 兼 理工学研究科委員長を歴任

◇1970年 3月 明治大学大学院工学研究科電気工学専攻 博士課程修了 (工学博士)
1978年4月 明治大学工学部電子通信工学科教授となり、学部長などを歴任。

◆安全についての持論

◇安全に関する学問は、自然科学、社会科学、人文科学を包含した安全学として 確立されるべきである
◇安全の実現は、施設設備の安全化を優先した後に、人間の注意に任せるべきである
◇過失による事故は、犯人捜査よりは事故調査を優先させるべきである。
❖機械安全標準化特別委員会 委員長 (日本機械工業連合会・ISO/TC199審議団体、経済産業省)

◆教育

◇情報関係：情報科学概論、ファジィ理論、情報多値論理特論、
◇安全関係：安全学特論、システム安全学特論、新領域創造特論

◆研究

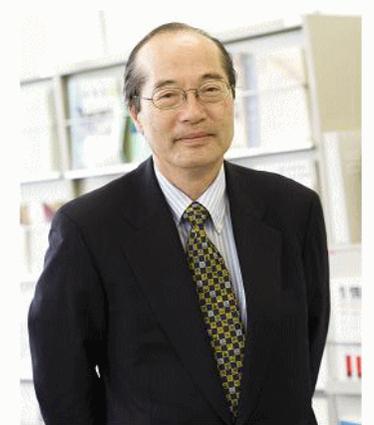
◇情報科学：特に人工知能、ファジィ理論、コンピュータセキュリティ
◇安全学：特にフェールセーフ技術、機械安全、製品安全、労働安全、情報安全、ロボット安全

◆トピックス これまでに関わった代表的な業務、兼職

◇回転ドア：経済産業省 自動回転ドア安全規格・JIS原案作成委員会委員長
◇消費者庁：消費者庁 消費者安全に関する検討委員会 委員
◇エレベータ：国土交通省 昇降機等事故対策委員会 委員長
◇ロボット：NEDO 生活支援ロボット実用化プロジェクトの採択審査委員長 ほか

◆著書 多数 『入門テキスト 安全学』東洋経済新報社 2016年

『安全四学』 日本規格協会 2021年



代表 中嶋 洋介

博士(学術)

Yosuke Nick Nakashima



【現在】

- ◆一般社団法人品質と安全文化フォーラム代表理事
- ◆機械安全標準化特別委員会ISO/TC199部会委員
審議団体:日本工業連合会

【履歴、職歴】

- ◆大妻女子大学人間関係学部 非常勤講師 (～2015)
- ◆武蔵野大学人間関係学部 非常勤講師 (～2010)
- ◆内閣府消費者委員会消費者安全専門調査委員 (～2013)
- ◆消費者庁消費者教育推進会議専門委員 (～2014)
- ◆(株)神戸製鋼所(1972年4月～2002年9月)
鉄鋼原料調達、カタル製鉄所、ロスアンゼルス事務所長他
- ◆(社)日本圧接協会(1999年4月～2003年5月)
専務理事・事務局長

【学位】

◆「博士(学術)」

2023年3月26日、明治大学大学院理工学研究科を修了

博士論文「日常生活における高齢者の転倒事故に関する研究」

※学位論文の中で、転倒事故の原因として施設の設置管理の瑕疵を挙げているがその論旨の中心になるのは、2020年10月に日本建築学会技術報告集 第26巻 第64号 に採録された査読論文「民事裁判例から見る転倒事故の施設類型別の特徴と施設管理者の責任」です。

【主な著書】

- ・単著『安全とリスクのおはなし』
(財)日本規格協会 2006年 (7刷)
日本図書館協会 選定図書
- ・単著『交渉力』
講談社現代新書 2000年 (5刷)

【博士論文】

- ・単著「日常生活における高齢者の転倒事故に関する研究」
(明治大学大学院理工学研究科新領域専攻)

【日本建築学会査読論文】

- ・「民事裁判例から見る転倒事故の施設類型別の特徴と施設管理者の責任」
日本建築学会技術報告集 第26巻第64号
DOI [HTTPS://DOI.ORG/10.3130/AIJT.26.1185](https://doi.org/10.3130/AIJT.26.1185)



『交渉力』
講談社現代新書



『安全とリスクの
おはなし』
(財)日本規格協会